



## 入学おめでとう

入学おめでとう。

今日、北は北海道から南はシンガポール、ドバイにかけて、全世界225の学校から314名の諸君が入学し、そのまた39名が、今ここ15Rで顔を合わせることになった。さまざまな偶然が重なってここに集まった諸君、どうか実り豊かな一年間を送ってほしい。

\*

私（担任の保戸塚＝ほとづか）は日比谷に勤務して9年目になるが、その間ずっと入学者選抜の仕事に携わってきた。そのため、毎年、学校見学会や学校説明会の際には、入選の方法を解説したり、学校の特色を説明したりしてきた。君たちの中にも私の話を聞いた諸君がいるかも知れない。

そういう時によく受ける質問が「日比谷高校のイイ所ってどういう所ですか？」というものである。君たちは入学したばかりだから、もし後輩からこんな質問を受けても、まだうまく答えられないだろうとは思いますが、さて、私はなんて答えていると思う？

私は、「日比谷のイイ所はいっぱいありますが、本当に素晴らしいところは「環境」でも「施設」でも「先生方」でもありません。本当に素晴らしいのは、ともに学ぶ「友人」たちの存在です。」と答えている。

\*

知っての通り、日比谷高校は「進学指導重点校」として、君たちの将来の夢の実現をサポートする学校である。しかし、ただ大学へ「進学する」ということが目標なら、何も「こ

こ」で学ぶ必要はない。極論をすれば、家で自分で勉強して高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）を受けたって大学へは行けるのである。

では、「ここ」で学ぶのはなぜなのか？

それは「友人と共に」、つまり、「We」で学ぶことに大きな意味があるからである。教科の学習にしる、SSHの講座にしる、部活動にしる、行事に向けての準備にしる、すべてを個性豊かな友人とともに行うのである。その中で、笑い、張り合い、得意になり、背伸びし、一方で、悔し涙を流し、羨ましく思い、卑下したくなったり悲しくなったりする…。そういうさまざまな思いを分かち合い、励まし合う中で、君たちは一人では決して得ることのできない、かけがえのない時間を手に入れることになるのである。日比谷には、その時間を分かち合える、いや、分かち合う価値のある友人たちがいるのである。

\*

誰にでもイイ面と悪い面とがある。100%の善人などいないのだ。同じように、どの学校にもイイ面と悪い面とがあるだろう。どうか、周囲の友だちのイイ面を認めあい高めあう関係を築き、生涯の友と呼べるような存在を見つけてほしい。そして、日比谷高校のイイ面とたくさん関わるような学校生活を送ってほしい。

その手助けになることを願って、担任はこの「We」を書いていきたいと思う。

ようこそ日比谷高校へ。入学おめでとう。